# 丸山湿原群保全の会会報

（第 140 号）

発行日：2019 年（H31）３月 15 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

時が経つのは早いもの、あの東日本大震災から 8 年が過ぎました。昨年の夏、福島県へボランティア同行した時のことが思い出されます。私の最大関心事は防潮堤でした。**総延長 400 キロ 1 兆円を投じる防潮堤。町や農地から海は全く見えず。防潮堤ができ安心？海と陸との分断。本当にいいのかと。これは里地里山でもいえること。（実は様々な分断は大きく進んでいる…）**

すると「朝日新聞Globe＋」にこんな記事を見つけました。（昨年の８月９日古いですが…）

**「『海が見えなくなって漁師ができるか』『漁ができなければ集落は崩壊する』。**なりわいを犠牲にしてまで、防災を優先する必要はあるのか。**半年かけて話し合い、防潮堤との決別を決めた。**代わりに選んだのは、避難道の整備と高台への移転だった。（岩手県釜石市にある花露辺(けろべ)地区）」住民のほとんどは戻ってきたそうです。他にも防潮堤を拒否した地域もあるようですが。

**考え方はいろいろで、**防潮堤を否定する気は私もありません。ただ、**一つの見方で物事を推し進めていくことの危険性と、お墨付きの安心安全は実はどこにもないのではないかと思いました。自分の頭で考え、最適解を見つけていく。これこそ最も大切で重要なことだと私は思います。**

（今住　３月 14 日作成）

## 環境学習協力　★2 月 20 日（水）西谷小学校 3 年生（保全作業体験）

**本年度最後の活動です。**春の座学。初夏・秋のフィールド学習に続き最後は冬。といっても立春は過ぎています。最後は保全作業学習。**しかも今回は J:com のテレビカメラ付き！**

普段私たちがやっている活動のお手伝いをしていただいているのですが、**毎年この作業学習、本当にありがたいのです。まさしく協働！湿原内の刈り取ったヌマガヤ類を湿原外に運び出してもらっています。大人にとっては一番つらい作業。短い時間ですが、子どもたちは活き活きと楽しそうに作業をしてくれます。指導？の立場で参加している大人も負けじと作業。安全見守りは誰がするの？と思っていたら、先生方がしっかりと。**

楽しむ子どもたち　なんでやろ？

**保護者と私たちは「あ～しんど」。子どもに「なぜ大人になるとしんどいのやろ？」と問いかけると、「体が重たくなるからや！」とあっさり。「う～ん、納得」。体も心も重くなっているんでしょうね。**シンプルな答えに考えさせられました。ノコギリ体験も実施。西谷の子はほとんどが家？で体験済み。切れものですから少々心配しましたが、大丈夫のようでした。

頑張る保護者　ご苦労さんです

**作業が終わりご褒美タイム！**この時期はアカガエル類、カスミサンショウウオの卵が観察できる時期。湿原内に入らないと見ること

はできません。**湿原内の作業をしてもらっているのに見せないわけにはいかない！信義にもとる。**ということで、ありそうな場所へ。アカガエル類は多数見つかり、前日産卵したようなフレッシュなものも。おまけに運がいいことにニホンアカガエルの成体も見つかりました。**見て触って大はしゃぎでした。おまけにゼリー状の卵塊を見て「食べられる？」。でた～！「チュルチュル」とやっていただいてもいいのですが、食べるのは？（ネット上で聞いたことはありますが）**しかも産みたてはほとんど水。保全の観点からも食べるのはやめましょう！誰も食べないか？

見つかったニホンアカガエル

J:com さんと、こどもインタビュアー

カスミサンショウウオはやはりなかなか見つからない。**イノシシが踏み荒らしたバラバラの卵のうがちらほら。**これぞカスミサンショウウオという卵のうは見つかりませんでした。成体も見つけるのは至難の業。発見に至らず。**実は、このカスミサンショウウオ、「丸山湿原セミナー（両生類）」で田口さんより驚くべき発表がありました。丸山湿原からカスミサンショウウオが消滅！内容は、セミナー報告で。**

インタビューに答える水田さん

いずれにせよ、とても楽しい活動となりました。最後に J:com さんからのインタビュー。突如リポーターに変身する子どもも。J:com さん、子どもリポーター契約いかがですか？放送は翌日のデイリーニュース（宝塚・川西）。副代表水田さんのインタビューは落ち着いた対応でした。

さらに J:com さんから生出演の依頼も。芦屋スタジオで副代表西村さんと私で出演してきました。私はガチガチ、西本さんはスーラスラ。なんでやねんと思う TV 出演でした。

生出演後の 2 人。キャスターの大西さんと

**環境学習が将来の自分と自然、里地里山での暮らしに少しでもつながってくれればと思います。西谷は実はすごいところなんやで！誇りを持ちましょう！でも、西谷で暮らすか暮らさないかは自由。自分の生まれ育ったところを大切に思ってほしいだけです。**

## 定期活動　★2月 24 日（日）センサスライン設置　ヌマガヤ刈り取り作業　７名で活動

第 3 湿原作業

いよいよ両生類卵塊数調査が近づいて来ました。先日の環境学習で協力してもらいましたが、まだまだ準備が残っています。第３湿原下手と北側。第１湿原下手。**センサスラインを張らなければ調査ができぬ。ヌマガヤを刈らねばラインは張れぬ？ということで昨年同様ライン張りと刈り取りの同時進行。第３湿原で作業中にカスミサンショウウオの卵のう発見！しかもそこは、おととし横木を入れて水の停滞を作った場所。**たまたまか？功を奏したのか？

第 3 湿原のカスミサンショウウオ卵のう

わかりませんが、ここ数年第３湿原でカスミサンショウウオの卵が確認できていなかっただけに喜

準備完了　センサスライン

ばしいことです。（昨年、道にあった卵のうは第３湿原から流れ出たという噂もありますが…）少なくとも環境破壊になっていないことが確認できたのではないでしょうか。自信を持って進めていきましょう。しかし、ヌマガヤ運び出しはしんどい！**子どもたちよ Comeback Please！ あんたらが頼りや！**

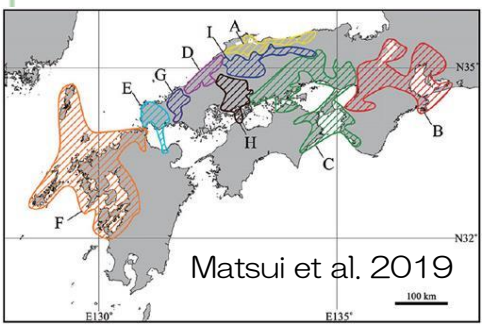
しかし、何とか時間内にライン張りも終了。あとはセミナーと調査を待つばかりとなりました。さて、何人の方がきてくれるのやら…楽しみです。

## 丸山湿原セミナー・両生類卵塊数調査　★3月2日（土）

**今年も田口さんをお迎えし丸山湿原セミナー（両生類）と卵塊数調査を実施しました。**オオサンショウウオ研究の第一人者。両生類のスペシャリストです。三田の人博研究員時代からのお付き合いとなります。（現ハンザキ研究所理事・広島市安佐動物公園勤務）今**回のテーマは「両生類は生き残れるか」。インパクトのあるテーマですが、両生類の約 30%が絶滅の危機に直面しています。背椎動物の中では１番危機的状況だそうです。**身近なところでは、トノサマガエルまで。**伊丹市のトノサマガエルは絶滅したとも。**トノサマガエルは水田（湿田）の減少ですが、水辺と陸を行き来する両生類にとって現代社会のインフラは相当厳しいようです。しかし、アマガエルやヌマガエルなどうまく適応し生き残るものも多くあるとのことでした。途中で意見交換もあり、ともに考えるスタイルのセミナーとなりました。

両生類博士とウルトラマン博士

（9 分類小型サンショウウオ）
Aサンインサンショウウオ
Bヤマトサンショウウオ
Cセトウチサンショウウオ
Dイワミサンショウウオ
Eヤマグチサンショウウオ
Fカスミサンショウウオ
Gアブサンショウウオ
Hアキサンショウウオ
Iヒバサンショウウオ



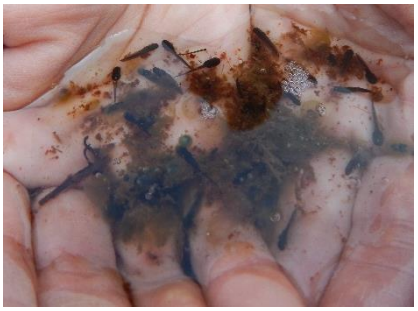
西日本小型サンショウウオ分布

その中で**発表ほやほやの驚くべきネタも！「カスミサンショウウオが丸山湿原から消滅！」**今回のテーマがテーマだけに**絶滅か？**しかし卵のうは確認してるし？？？実は、田口さんもつい３日ほど前に知られたことのようですが、**研究論文発表で西日本の止水性小型サンショウウオ（カスミサンショウウオ）が９種に分類されたということです。丸山湿原周辺の種はセトウチサンショウウオ**と命名されました。論文は英文。ご興味のある方は下記サイトをご確認ください。私読めません！https://bioone.org/journals/Current-Herpetology/volume-38/issue-1/hsj.38.32/Systematics-of-the-Widely-Distributed-Japanese-Clouded-Salamander-Hynobius-nebulosus/10.5358/hsj.38.32.full

９種すべての画像もあります。どこが違うかは？？？わかる人にはわかるらしい。キタノメダカとミナミメダカと同じですね。**やはり我々は地域で判断でしょうか？しかも止水性のサンショウウオは移動距離が最大 100mとも。個体群ごとに DNA が違うことが多いと思われます。多様性の保存のため別の地域に移動して放すことはご法度です。**（カラスがやったら？しゃーないけど…憎たらしいわ！成体食べますし！）

必死に調査　卵踏んでるかも！

午後は両生類卵塊数調査。神戸からのご家族４人も加わり、第３湿原・第１湿原の調査。アカガエル類の卵は見つかりますが、カスミ…いや**セトウチサンショウウオ**の卵のうはなかなか


アカガエル類のオタマジャクシ

見つかりません。事前観察では確認済み。暖かくてすでにハッチアウトしたのか？**アカガエルのオタマジャクシが卵塊周りにウジャウジャと。**イノシシが相当荒らしているので無いことも？

と思ったらいくつかの卵のうが見つかったようです。第３湿原でも前回観察したものと別のが。結局昨年より相当少ない結果となりましたが、カスミサンショウウオ（当時）の卵のうが見つからない年もあり、気候や条件の違いであろうとのことでした。大きな環境変化があるわけでもなく、今後も定期的な調査が重要とのことでした。おっと、**数ですがアカガエル類２９塊（オタマ集団を含む）カスミ…いやセトウチサンショウウオ６対という調査結果となりました。**来年はどうなるでしょうか？またお越しください。途中私の不注意でカメラを湿原内に紛失。失意のどん底のなか見つけてくださった会員さんに感謝です。

油断の記念撮影

**気を取り直し記念写真！**タイマーのつもりが動揺していたのか作動せず。毎年の両生類ポーズではなく油断の表情となってしまいました。しかも私は入れませんでした。この後入ってみんなと両生類ポーズをとってます。アホですわ！**申し訳ありません。ちなみに今年の田口さんちょっと元気がなかったような？せっかく息子さん（ウルトラマン博士）と一緒だったのに。後で聞くと胃腸炎と３８℃以上の発熱。満身創痍の中、講演と調査頑張っていただきました。ありがとうございました。**後日、本来のパフォーマンスが出せず申し訳ないとメールが届きました。いえいえ、**田口さんにお聞きしないと私たちはまだセトウチサンショウウオのことは知らないところでした。**ホットな話題をありがとうございました。参加された皆さんもありがとうございました。**いつまでもカスミ…いやセトウチサンショウウオ（卵のう）が見られる丸山湿原が続きますように。**ご協力をお願いいたします。

**定期活動★３月９日（土）　定期基礎調査・巡回、観察、外来種除去　臨時作業　６名の参加**

今回も観察日ですが、湿原内（第４湿原）ヌマガヤ刈り取りを実施しました。

| 目的 | 市内 | 市外 |
|---|---|---|
| 丸山 | 57 | 60 |
| ハイキング | 9 | 5 |
| その他 | 1 | 0 |

**来場者数　計 132 人**
**（竹筒ポスト人数）**

| 場所 | 時間 | 気温【水温】 | 電気伝導度（EC） | PH |
|---|---|---|---|---|
| 入口 | 10：03 | 6.4℃ | | |
| 視点場 | 10：38 | 13.3℃ | | 7.1 |
| 第３湿原 | 10：27 | 【10.3℃】 | 26.6μS/cm | 6.6 |
| 第１湿原 | 10：47 | 【13.5℃】 | 29.6μS/cm | 7.3 |
| 第２湿原 | 11：12 | 【6.9℃】 | 24.9μS/cm | 7.1 |

第１湿原端の定期調査

あと一息です。ヌマガヤの刈り取り。**来年度からはもう少し早くからの刈り取り計画にしたいと思います。**昨年夏の降雨量が少なかったせいか水量が少ないようです。あかん紙面が足りん！以上！

**次回活動３月 24 日（日）作業（北摂里愛す会との協働リベンジ実現！）研修が入っているとのことですが、１人でも参加願えればうれしいです。お待ちしています。４月１３日（土）定期調査**
**４月 28 日（日）作業 10 連休中ですね！　なんともう５月や！**

刈り取った第４湿原のヌマガヤ